

2

三重県熊野市

熊野市立有馬中学校

■クラス数／9クラス
 ■生徒数／244名
 ■建築主／熊野市
 ■所在地／熊野市有馬町 1398
 ■敷地面積／15,562㎡
 ■建築面積／4,097㎡
 ■延床面積／5,171㎡（体育館 1,074㎡）
 ■構造・規模／RC造 校舎棟 地上3階建
 RS造 体育館 地上1階建
 ■施工期間／2003年7月～2005年3月
 ※クラス・生徒の数値は平成22年3月末現在

熊野杉に包み込まれ、
環境教育を実践。情報環境の
充実で世界へとつながる。

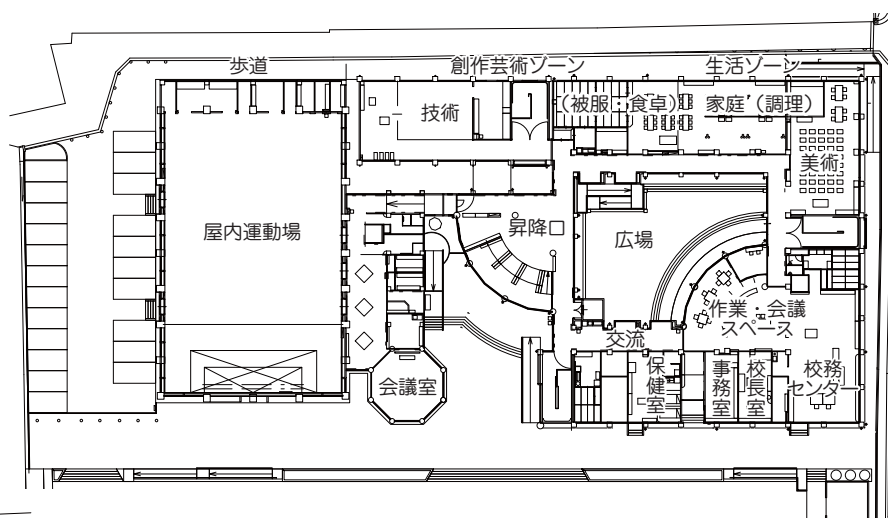
室内にふんだんに使われた熊野杉。自然の大切さを学び、自然エネルギーの利用で環境教育を行う。インターネットを使い、外国と連携した学習も。



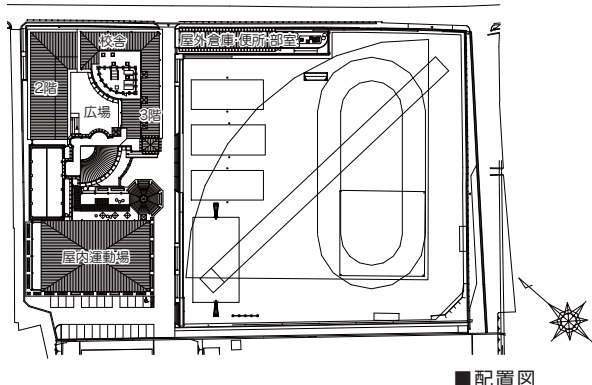
日照調整の庇・ルーバー等、環境に配慮したデザイン

計画に見られる 指針改訂のポイント

1. 多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供
2. 情報環境の充実
3. 環境面からの持続可能性への配慮



■ 1階平面図



■ 配置図

多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供 ―熊野杉をふんだんに使った校舎・体育館



1 天井と壁面、照明器具に熊野杉を使用した音楽室



2 あたたかみのあるトイレの手洗い場



3 自然光で明るい熊野杉を使用した屋内運動場

情報環境の充実 ―図書館と連携するコンピュータ室



4 海外との交流等が行われるコンピュータ室

校長の視点から

生徒を癒し、落ち着かせる 熊野杉を使用した校舎

校舎内は、地元・熊野産の杉の無垢材で仕上げられ、やさしい表情を醸し出しています。そのぬくもりが生徒たちの心を癒し、落ち着かせているようで、この校舎になってから、生徒たちの表情が柔和になったように思います。特に音楽室では、音の響きが格段に柔らかくなったようで、生徒たちも音楽の授業に積極的になりました。(写真1～3)

トイレも生徒たちの 快適なふれあい空間

熊野杉はトイレにも使われ、トップライトから降り注ぐ明るい自然光や、無垢材と鮮やかなコントラストをつくるブルーのパネルとともに、いままでのトイレのイメージを劇的に変えています。そのモダンで清潔感あふれる空間は生徒たちにも居心地がいいようで、ぐるりと回れる手洗いカウンターでは、友だち同士のおしゃべりも弾めます。(写真2)

整備されたネット環境で 交際交流も促進

市長の方針もあり、情報教育には力が注がれています。平成12年には市内の全小中学校がイントラネットで結ばれました。本校でも、図書館に隣接してコンピュータ室があり、本を見ながら調べものができる環境が整っています。また年3回、希望者20名を募って行う、インターネットでの米国の大学生との英語交流は、貴重な学習機会となっています。(写真4)

多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供
「木のぬくもりが生徒にゆとりを与える図書館」



5 落ち着いたある図書館



6 和みを生む図書館の畳スペース



7 屋外でも読書が楽しめる屋上テラス



8 採光豊かな会議室

教職員の視点から

生徒たちの“心のゆとり”を生み出す空間

子どもたちにはいつも「自分の持ち物と他人の権利を大事にしよう」と指導しています。その基本となるのは、自分を顧み、仲間を思いやる“心のゆとり”だと考えています。そこで、“心のゆとり”を生み出すために、いくつかの工夫をしました。工夫の第一は、毎朝のホームルームでの10分間の読書です。施設的环境もそれにふさわしく、校舎全体に熊野杉

を用い、あたたかな雰囲気のある空間を生み出しています。本とじっくり接することができるよう、図書館にはベンチや畳スペースを設けています。明るい会議室やあたたかな気持ちの良い日には屋外でも読書ができるように緑化された屋上テラスもあり、様々な読書環境が用意されています。本としっかり向き合う時間をもつことで、生徒の心に落ち着き＝ゆとりが育まれています。(写真5～8)

太陽光発電や光のコントロールで環境への関心を喚起する工夫

環境教育に資するため生徒の目につきやすい場所に様々な工夫を凝らしています。トイレのトップライトは照明がなくても明るく、直射で温度上昇が懸念させる教室にはルーバーを設置、屋上テラスの緑化や太陽光パネルも設置しています。また、発電モニターを昇降口付近に設置することで生徒たちの環境への関心を高めています。(写真9～12)

環境面からの持続可能性への配慮 「環境共生への気づきを生む様々な工夫」



9 屋上に設置された太陽光パネル



10 太陽光による発電量を生徒に伝えるモニター



11 室内の温度上昇を防ぐルーバー



12 トップライトにより自然光で明るいトイレ

〈設計者の視点から〉

- ◎熊野杉の持ち味を活かしながら、モダンな空間として仕上げていくことに注力しました。自然光の活用や明るい色調のパネルとのダイナミックな対比はその一例です。(写真1、3、5、6)
- ◎トイレは、熊野杉のあたたかみと清潔感を活かしながら、機能的な回遊動線を備えた斬新な空間に仕上げています。(写真2)
- ◎コンピュータ室には、勉強会ができるスペースを確保しました。(写真4)

(設計／内藤建築事務所)

検討委員会委員の視点から

環境面からの持続可能性への配慮の観点から

校舎や体育館には、地元の熊野杉をふんだんに利用し、落ち着きのある、また、あたたかみのある空間を実現している。また、自然光をできる限り取り入れる工夫がされているなど、環境負荷の低減や自然との共生等を考慮した施設づくりとなっている。

多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供の観点から

図書室にベンチや畳スペースを設けたり、隣接してコンピュータ室を配置したりするなど、図書とじっくり接することができる空間や調べ学習が行いやすい空間を確保している。図書室の積極的な利用を促す計画になっているといえる。